

参加報告書

私は8月27日～9月19日の3.5週間、カナダにあるセルカーカレッジにて語学研修に参加しました。大学主催のイベントやアクティビティが充実しており、時間が過ぎるのが早く感じました。今回の留学では、新しい土地で勉強できることに感謝し、積極的に様々な国籍の人々と英語で話すことを心掛けて生活しました。英語を学習することがこの語学研修の主な目的でしたが、日本では味わうことのできない文化や人々の考え方の違いを理解できた有意義な機会となりました。

大学があるキャッスルガーリーという町は、バンクーバーから飛行機で約1時間のところに位置しています。8月27日にプログラムが始まり、初めの3日間はオリエンテーションが行われました。この期間は授業のクラス分けテストを受けたり、キャンパスツアーで大学内を見て回ったりしました。テストは Grammar・Reading・Writing・Speaking (Interview) のテストがありました。1つ1つの技能で能力に適したレベルに細かく振り分けられる点がこのプログラムの良いところだと思います。私は1番レベルの高いクラスで授業を受けました。韓国人と台湾人の学生もいましたが、日本人が8割ほどを占めていました。また、留学の期間も学生によって異なり、4か月間滞在する学生もいれば、8か月セルカーカレッジで勉強する予定の学生もいました。授業は英語の技能に特化した Grammar・Writing・Academic Reading・Literature Reading・Business Communication の他に Canadian Studies という授業がありました。Canadian Studies ではクマやエルクなどのカナダ特有の野生動物について遭遇時の対処方法を学習したり、学外の施設を訪れて大学がある地域の先住民の歴史について勉強したりしました。どの授業も自分の意見を言うことが重要視されており、ペアワークやグループ

プレゼンテーションの時間が多く設けられていました。積極的に日本人以外の学生と話し合うことで、意見を正しく伝えるために発音を修正したり、話し方を工夫したりすることにつながりました。時間割はレベルによって違い、昼休みは毎日決まった時間ではなかったので、空きコマにお昼ご飯を食べるスタイルでした。同じ授業を受けたクラスメートと一緒にご飯を食べることが多かったのですが、私は台湾人の学生と意気投合し昼休みを通して仲良くなれました。異文化交流にもつながり、お互いの国についてなどの会話を楽しむことができました。放課後はホームステイ先の近くにあるスーパーや雑貨屋さんに行ったり、コミュニケーションセンターで行われたアイスホッケーの試合を観戦したりしました。私は日本でアイスホッケーを見たことがなかったので、新しいスポーツに触れる機会になり、ホッケーの魅力に気づくことができた良い機会となりました。他にも帰国前日の夜に大学の先生の家のホームパーティーに招待されたことも忘れない経験となりました。

ホームステイ先については、大学からバスで40分くらいのところにあるお宅でした。私のホストファミリーは夫婦と私と同じ年齢位のお子さんが2人いる家庭でした。ペットも犬と猫が1匹ずついました。また、私以外にも北九大ではない日本人学生が2人、同じホームステイ先だったので、とても賑やかな雰囲気で楽しく生活できました。夕食と一緒に食べる事が多く、ホストファミリーとその日の大学で学習したこと話したり、日本の文化を説明したりしました。特に食文化の話は盛り上がり、お寿司をリクエストされたので、ルームメートと一緒にお寿司とお味噌汁を作りました。カナダにお寿司屋さんはいくつかありますが、値段が高く普段食べられないようでとても喜んでくれました。ホストファミリーとの思い出の中で1番印象に残っていることは週末に連れて行ってくれた3泊4日のキャンプです。他のホストファミリーと合同で車で3時間ほどの湖に行き、キャンプファイヤーやペダルボート、Scavenger Hunt、Yahtzeeなど外でのアクティビティを満喫しました。ワインナーを枝に刺してキャンプファイヤーの火で焼いたり、カヤックを操縦したりなど初体験のこともたくさんありとても感動しました。

留学を通して得た学びは、円滑に異文化コミュニケーションを行う上で重要なことは、自分自身の意見を相手に伝えることです。これは私がセルカーカレッジの授業やホストファミリーとの会話の中で実感したことなのですが、自分の意見を述べることで相手の話に興味があるのかを示すことにつながると思います。渡航前までは相手の質問に曖昧に答えてしまうことが多々ありました。しかし、それは相手に賛成も反対もしておらず、母国語が違う人同士ではその曖昧なニュアンスが通じないことがあるということを改めて理解しました。今回のプログラムで新しいことにチャレンジすることは価値があることだということを再認識しました。これらの学びを今後のディスカッションや国際交流の機会に活かしていきたいです。



